十文字学園女子大学人間生活学部紀要第3巻　2005年

幼稚園卒園児の小学校適応（2）
－子どもの幼稚園から小学校への移行に対する親の視点－

Adaptation of graduates of kindergarten to primary school life (2) : Parent's perspectives on transition from kindergarten to school.

野口　隆子　Takako NOGUCHI
長田　瑞恵　Mizue NAGATA
関口はつ江　Hatsue SEKIGUCHI

要　約

本研究では，子どもが幼稚園を卒園し小学校入学を経て小学校の環境に適応していく過程が，生活世界の異なる親の視点から見てどのように捉えられているのかを探索的に検討した。小学校に入学した小学1年生の児童107名と母親に対し，家庭での小学校に関する話題，幼稚園と比較した小学校入学後の予想外の出来事・戸惑い，教師の指導について自由記述による質問紙調査を依頼した。得られた回答からカテゴリーを作成し，発生頻度を算出した。分析の結果，全般的に小学校に関する家庭での話題では「授業，学習面」，「教師」，「子どもの友だち，人間関係」，「給食」などが多い。また，入学後の戸惑いについて見たところ，遊びを中心とした幼稚園の生活から，教科を中心とした時間的区切りのある小学校の生活への移行にあたって，特に問題なく過ごせたという者がいる一方，多くの者が戸惑いや不安を家庭で親に話していることがわかった。また，その際に教師の存在が重要であると考えられる。

英文要約

Purpose of this exploratory study is examining how process of children's adaptation from kindergarten life to primary school life is recognized by their parents who are in different experience. Questionnaires were distributed to 107 mothers whose children entered the primary school, 1st grade. We asked about what are topics of mother-child conversation about school life at home, difficulties of school life compared with kindergarten life, and teaching of their teachers. Result of analysis showed

---

十文字学園女子大学人間生活学部幼児教育学科
Department of Early Childhood Care and Education, Faculty of Human Life, Jumonji University
キーワード：小学校適応　幼稚園から小学校への移行　親の視点

that there were many topics on "lesson/learning", "teacher", "friend/human relationship" , and "school meals" talked between child and parents generally. And, some children were well adapted but many children had some difficulties with the transition from play-centered life in kindergarten to time-limited and subjects-centered life in primary school life. In that case, existence of their classroom teacher is very important.

問　題

本研究では，子どもが幼稚園を卒園し小学校入学を経て小学校の環境に適応していく過程を，生活世界の異なる親の視点からどのように捉えているのかを探索的に検討することを目的としている。

中央教育審議会は平成16年10月「子どもを取り巻く環境の変化を踏まえた今後の幼児教育の在り方について（中間報告）」の中で，幼児の生活の連続性及び発達や学びの連続性を踏まえた幼児教育の充実を強調している。幼児教育と小学校教育との連携・持続の強化・改善は日本における重要な今日的課題の１つとなっている。幼児期の遊びを通した学びから，小学校以降の教科学習を中心とする学びへの移行について，子どもの発達や学びの連続性を踏まえた教育課程，環境や支援のあり方が強調されている。

時間・空間，物，環境，生活習慣，教育の目的，教師の役割等々，おそらく多くの事柄が子どもにとって全く新たな経験となるだろう。就学前から子どもたちは学校に対するイメージ，信念を構築していくのだ（Paris & Cunningham, 1996)。幼稚園と小学校という異なる文化を経験する際，子どもはどのような不安や戸惑いを感じているのか。また，どのように適応するのか。

本研究ではまず第１に，親子の会話に着目し，子どもは家庭で小学校についてどのような事柄を話しているのかを明らかにする。母子の語りは，その語りによって子どもの自己を構成し，異なる環境で生活をする子どもの位置づけを果たす役割を持つと考えられる（小松・野口，2001)。子どもの生活・経験が大きく変化する小学校入学という出来事に着目する際，家庭で全般的に語られる内容を取り上げることによって，主となる観点を明らかにする事が出来ると考えられる。第2に，小学校入学時，それまでの幼稚園での生活と比べどのような点に戸惑いを感じたのかという点に着目し，移行期に発生すると予想される諸問題を検討する。第3に，教師の指導の内容を分析する。幼小連携において，教員の人事交流，幼稚園・小学校の合同活動や連携の取り組み，幼小連携推進校の奨励など，さらに専門的に検討することが求められている。発達に応じた教育課程や活動をめぐり，幼小の教師同士の対話が求められている中，幼稚園と小学校ではどのような指導の違いが見られるのか，移行期の子どもを持つ親の視点から探ることは意義があるだろう。

方　法

(1)　協力者：福島県郡山市の私立幼稚園3園の卒園児で，小学校に入学した小学1年生の児童107名と母親。

(2)　調査内容：質問紙法。一連発表(1)でおこなった調査と同時に実施した。「家庭で小学校について話す話題」,「小学校入学時に子どもが戸惑った事／入学時の予想と異なる学校での生活についての感想」,「先生から誉められたり注意されたりしたこと」について，自由記述形式の調査をおこなった。自由に記述してもらう形式を取ることによって，多様な観点を抽出できると考えたからである。

(3)　調査時期：2004年8月～9月にかけて質問紙の配布・回収をおこなった。回収率は67％であった。

結果と考察

自由記述の分析から，カテゴリーを作成し，各々の発生頻度を算出した（Table 1，2，Figure 1，2，3に示す)。尚，それぞれ若干数ではあったが自由記述欄への未記入がみられた。未回答は除いて分析をおこなった。以下，家庭での小学校に関する話題について，幼稚園と比較した小学校入学後の予想外の出来事・戸惑いについて，教師の指導について，分析の結果を述べる。

1．家庭での小学校に関する話題

まず，家庭内で小学校についてどのような会話がなされているのか，自由記述から話題をまとめカテゴリーを作成した。Figure 1に，作成したカテゴリー毎に発生頻度を示した。

「授業，学習面（13.0%)」,「教師（17.8%)」,「子どもの友だち，人間関係（29.6%)」,「給食（20.3%)」などの話題が多くあがっていた。特に，子どもの友だち関係に関する話題が最も多くみられた。“友だちができた”,“○○と～をした”,“友だちとけんかした”といった親しい友だちに関する話題や，クラスメートについて“○○ちゃんはこういう子だ”といった報告，“いじわるされた”,“たたかれた”などの話しがあがっているようである。子どもにとって，小学校で出会い，築く新たな人間関係が重要であることが推測される。次いで給食に関する話題も多くみられた。“おいしかった”“残さなかった”,“○○を食べた”などのやりとりがおこなわれている。今まで家庭で作ることが中心だった食事が学校給食となるため，母親の大きな関心事ともなっているのだろう。次に，教師について,“先生がこんな面白い話をした”という事の他,“自分が先生に怒られた”“○○が怒られた”などの注意を受けた事項が多く挙がっていた。学習面については，授業の内容や勉強した内容についての話題があがっていた。これらの話題は子どもから挙がってくることでもあるが，同時に親の関心事にもなっていると思われる。特に，子どもが学校に入って楽しく過ごせているかどうかを不安に思い，聞き出すこともあるだろう。

その他のカテゴリーとして,“○○ができるようになった”など，子どもが挙げる「達成感（2.4%)」,「学校での出来事全般について（2.8%)」，学校での「生活習慣（1.6%)」,「休み時間（5.2%)」におこなったこと，学校で育てている「動植物（1.2%）」について，学校の「行事（2.0%)」,「登下校（1.2%)」について，学童等「学校終了後（1.2%)」に関する話題などがみられた。

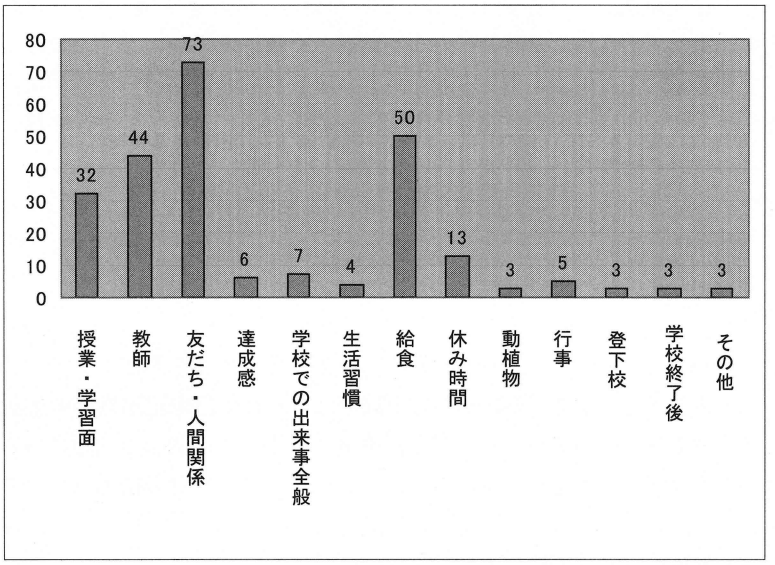

Figure 1　家庭での小学校に関する話題：カテゴリー別の発生頻度

2．幼稚園と比較した小学校入学後の予想外の出来事・戸惑い

次に，幼稚園時と比べ，小学校入学後どのような予想外の出来事や戸惑ったことがあったかについて自由記述から分析をおこなった。Table 1 に抽出されたカテゴリーと内容例を示す。また，Figure 2 に各々のカテゴリーの発生頻度を示す。また，予想外の出来事・戸惑いとして，プラスの方向としてあげられているものと，マイナス面としてあがっているものとがあり，それぞれ分けて示している。

まず全体の結果をみると，特に「問題なし（22.5%）」というものが多かった。次いで多いのが，「教師（15%）」，そして「子どもの友だち関係（14.5%）」，「授業スタイル（11.7%）」，などであった。

特に戸惑いもなく予想通りで問題がないという者がいる一方，この結果から，教師の存在の重要性が伺える。「教師」に対するコメントの大半がマイナス面での戸惑いであった。内容を見ると，幼稚園の先生に比べ，小学校の先生は怒る，怖い，などの意見が見られた。自分が怒られなくても，注意を受ける他の子を見て不安感を覚える，などの意見もみられた。先生に恵まれたというプラス面のコメントも上がっている一方，例えば“幼稚園は何でも困った事があると先生が優しく手助けをしてくれましたが，学校は「自分の事は自分でする」教育で，「違うなあ」と感じる面は多々あります”といったコメント，“幼稚園では先生も一人一人きちんと面倒見て下さっていましたが，学校では一人一人の面倒など見てくれず，集団でしか扱われない為，その不安もあった様です。”，“叱られる事に対して敏感になっている。”といったコメントがあがっている。こうした点から，幼稚園の先生と小学校の先生とで，子どもに対する関わり方に相違点が見られ，子どもとその親が戸惑いを感じていることが明らかになった。

「子どもの友だち関係」では，新しい友だちができるかどうか，また従来の友だち関係の変

化による戸惑い，ちょっとしたことで生じるトラブルに対する戸惑いが多くあがっていた。

幼稚園とは異なる「授業スタイル」への戸惑いは，授業中は席を立てず，じっと話しを聞いていなければならないという点，時間割等，時間の区切りのある生活，授業の中で自分の意見を言ったり発表をしなければならないという点などがあげられる。こうした授業スタイルに対し，例えば“次々に子供たちが先生に話しかける中，自分も伝えたい事（聞きたい事）を話したのに，先生にうまく伝わらず，質問と違う答えが返ってきてどう対処してよいのか戸惑い悲しくなったようです。”といった子どもの戸惑いに関するコメントが見られていた。“遊ぶ時間がない”“じっと話しをきくこと”“なかなか意見をいえない”など，授業スタイルに対する違和感があることも示唆される。

その他，「学習面（6.1%）」，「給食（1.8%）」，「トイレ（3.7%）」，「学童（1.8%）」，また親自身の戸惑いとして「親の不安（4.2%）」などがみられた。全員がプラスの変化としてあげていたのが「子どもの主体性・自立（6.5%）」であった。自分で全部できるようになった，積極的になったなど，幼稚園時からの変化・成長に喜びを感じるコメントがあがっていた。

Table 1　小学校入学後の予想外の出来事・戸惑い

カテゴリー	例
1．授業スタイル	授業中は席を立てない／じっと話を聞く／自分の意見を言う／集中する／授業と休み時間の区切り
2．学習面	勉強についていけるかどうか／宿題を終わらせる
3．教師	教師の関わりかた（怒り方・誉め方）／厳しい・優しい／個々の子どもに対する幼稚園との対応の違い／子どもへの理解／親とのコミュニケーション
4．子どもの主体性・自立	主体的にできる／積極的に挑戦する／自分で考えて物事ができる
5．子どもの友だち関係	友だちができる／仲良しの子との関係の変化／トラブル
6．給食	給食の配膳／時間内に給食を食べられるか
7．トイレ	洋式がない／トイレに行く時間
8．通学	幼稚園の時より遠い／重い荷物を持って歩く／雨の日の登校／集団登校・班登校
9．学童	学童や児童クラブになじめるか／見てくれる学年の制限
10．親の不安	小学校へ入学させることへの緊張感／新しい世界、環境全てに不安
11．その他	上記のカテゴリーにあてはまらないもの
12．問題なし	問題ない・特になしなどの回答

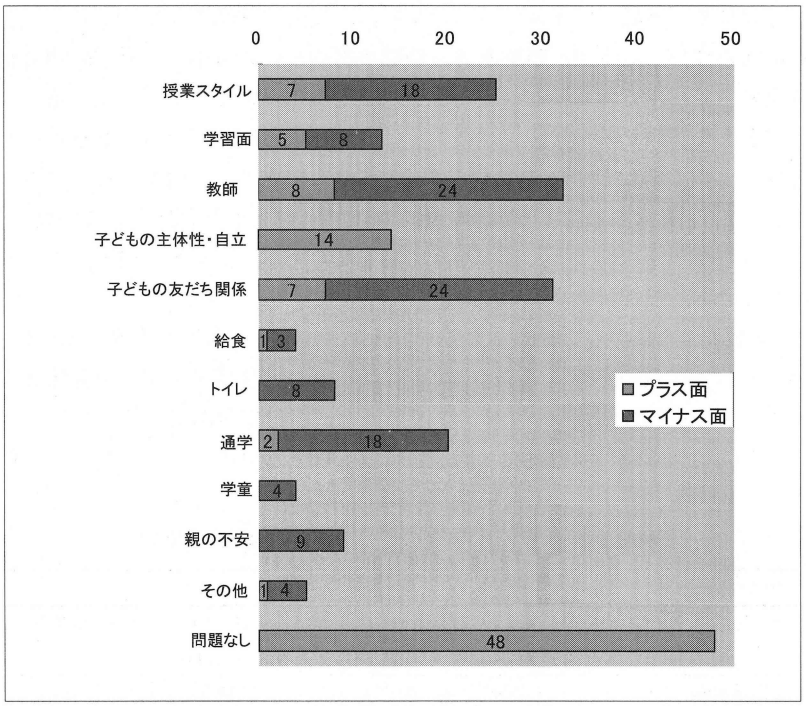

Figure 2 小学校入学後の予想外の出来事・戸惑い：カテゴリー別の発生頻度

3．教師の指導観点

上記の結果では，子ども・親にとって，子どもの小学校での生活をサポートする教師の存在が非常に重要であったことがうかがえた。最後に，教師に誉められた点・注意された点などを聞くことによって，教師の子どもに対する指導の視点に関する分析をおこなった。

最も多いのが，「授業スタイル（22.0%）」に対する指導である。“発表の時など声が大きくはっきりしているので誉められた。”“授業中，席におちついて座っていられず注意された。”など，授業を集中して聞けるかどうか，発言や発表をしっかりとできるかといって点が非常に多くあがっていた。次いで多いのが，「授業内容・学習面（16.2%）」であった。授業内容や課題ができたかどうかといった点が大半を占めていた。こうした点から，教師の関心の中心は授業時の子どもの姿にあることが伺える。また，「子どもの友だち関係（12.9%）」に対する指導もやはり多くみられていた。

その他，「生活面（11.0%）」への指導，「教師との関係（8.4%）」に関わる内容の指導，「子どもの主体性・自立（6.4%）」といった面，「性格・態度（9.0%）」，「給食（8%）」，学校での集団生活の「ルール（1.9%）」などがみられた。

Table 2　教師の指導

カテゴリー	例
a.授業スタイル	聞く姿勢／発言・発表をしっかりとできる／座って集中できる／集団での行動
b.授業内容・学習面	理科の観察時の表現の豊かさ・細やかさ／国語の読み方／字（書ける・上手・丁寧か等）／作品の評価／提出物／授業の課題
c.教師との関係	手伝いをする／わからないことを聞く／言ったことを覚えている／友だちの様子を伝える
d.子どもの主体性・自立	友だちの意見に流されず、自分の考えで行動／自分のやらなくてはいけないことを認識／責任感を持って動く
e.子どもの友だち関係	友だちの面倒を見る／思いやりがある／トラブル／ふざける
f.給食	好き嫌い／きれいに食べる、食べ方／当番活動／時間内に食べる
g.性格・態度	明るい／笑顔／挨拶・返事／言葉使い
h.ルール	学校での決まり事
i.生活面	着替え／整理整頓等の生活習慣／掃除／係り・当番活動／遅刻／登下校／忘れ物
j.その他	上記のカテゴリーにあてはまらないもの
k.問題なし	問題ない・特になしなどの回答

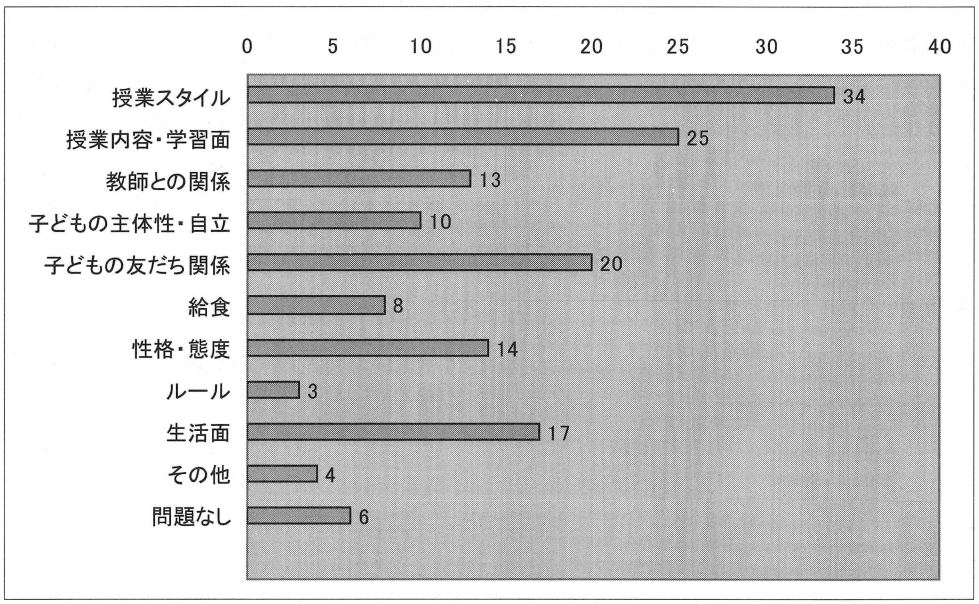

Figure 3　教師の指導：カテゴリー別の発生頻度

総合考察

遊びを中心とした幼稚園の生活から，教科を中心とした時間的区切りのある小学校の生活への移行にあたって，特に問題なく過ごせたという者がいる一方，多くの者が戸惑いや不安を家庭で親と話していることがわかった。日本の幼稚園では，概して，子どもたちが遊びを通して主体的に学び，それぞれの活動の展開に沿った時間の設定が重視されている。教師は子ども自身の主体的な活動を促し，子ども1人1人の行動と予想に基づく計画的な環境の構成をおこなうことが求められる。幼稚園の教師は遊びの中で“子どもを見守り”，“より添い”ながら子どもの発達を見取っていく。こうした幼児教育及び教師の役割の性質は，小学校の教科を主とした時間割や休み時間の遊び，教師による明確な授業計画と教材の精選，指導性と大きく様相が異なっている。

そのため，教師の存在が重要であることがうかがえる。本研究の分析結果から，教師の指導において，学習面での指導，授業というスタイルに関わる指導などが中心を占めていたようである。同時に，授業というスタイルの中での子どもに対する教師の関わりは幼稚園の時の個との密接なやりとりとは異なっている。注意を促された時，子どもは怒られた，怖いという印象を持つ可能性がある事が一部の母親のコメントから推測される。

また，全体的に子ども同士の友だち関係に関するコメントが多く見られていることから，小学校入学とともに変化する学習や生活面とともに，子ども同士の関係性が大きな影響を持っていることが推測された。教師も指導の中で子ども同士の関係性に注意を払っていく必要があるだろう。

本研究では，幼稚園と小学校ではその生活・教育文化が大きく異なっており，親・子どもの戸惑いがどういった事項にみられるのかを探索的に検討した。これらの結果は，母親に対する質問紙調査からえられたものである。すなわち，母親から捉えた子どもの様子であり，親自身の不安感が大きく反映されているであろう。そのため，今後母親だけでなく，教師側の観点・子ども自身の観点を含めつつ，長期的な適応の課程を検討することが重要な課題であると考えられる。また，幼稚園側が小学校の教育，小学校への移行をどのように考え，保育実践をおこなっているのかを検討し，幼稚園・小学校双方の教育文化の類似点・相違点を明らかにすることも必要だろう。

参考文献

国立教育政策研究所教育課程研究センター 2005 幼児期から児童期への教育　ひかりのくに株式会社

小松孝至・野口隆子　2001　幼稚園での経験に関する3歳児と母親の会話－その意義と機能に関する考察と検討－　大阪教育大学紀要第Ⅳ部門教育科学第50巻，第1号，61-78

Paris, C.G., &Cunningham, A.E. 1996 Children becoming students. Berliner, D.C.& Calfee, R.C.（Eds.） Handbook of Educational Psychology.

中央教育審議会　2004　子どもを取り巻く環境の変化を踏まえた今後の幼児教育の在り方について（中間報告）

付　記

本研究の実施にあたっては，平成17年度人間生活学部共同研究費（研究課題「現在の幼児の発達傾向と保育方法との関連－卒園児の小学校への適応を含む発達の縦断的研究 - 」）の助成を受けた。